



東京工芸大学・風工学共同研究拠点・研究集会（2022年2月9日）

## 日本版改良藤田スケールにおけるDI、DODと被害風速の評価

竜巻の強さの尺度として世界各地で用いられてきたフジタ(F) スケールは、被害程度の認識方法や風速の推定方法が明確でないなどの問題が指摘されており、米国では建築物等を対象として策定された改良フジタスケール(Enhanced Fujita Scale, EF スケール)が用いられています。本共同研究課題では、日本における竜巻の強度分類法として、国内の被害指標(Damage Indicator, DI)として適切なものを抽出し、それらの被害状況程度(Degree of Damage, DOD)の分類と対応する作用風速(または等価風速)の適切な評価方法の共同研究を進めてきました。その成果は、「竜巻等突風の強さの評定に関する検討会（会長：田村幸雄）」に提出され、2015年12月には、気象庁から「日本版改良藤田スケール(Japan Enhanced Fujita Scale, JEF スケール)に関するガイドライン」として公表されています。その後も継続して、DIとDODおよびその風速について、より安定的に評定できるよう、被害情報の収集、被害指標(DI)の洗い出し、被害程度(DOD)の分析、時空間的に非定常な流れ場での構造物や樹木等の空気力の性質、構造物や樹木等の耐力、強度の評価方法など多岐にわたる研究を行っています。本研究集会は、さまざまな情報交換を行い今後の研究活動に活かすことを目的としております。奮ってご参加いただきたく、ご案内申し上げます。

小林文明（防衛大学校）

と き：2022年2月9日13:00～16:00

ところ：オンライン開催（Zoom）

参加費：無料

申 込：下記フォームにご記入ください。後日参加情報をメールにてお送りします。

申し込み URL: <https://docs.google.com/forms/d/1FZwm6FJ9N5DcEgkfzolX9s0K1x812o7l7S-6u0HeE-I/edit>

問合先：東京工芸大学・風工学研究拠点

(TEL: 046-242-9658 E-mail: [jurc\\_office@arch.t-kougei.ac.jp](mailto:jurc_office@arch.t-kougei.ac.jp))

プログラム(発表者、タイトルは変更される可能性があります。)

時間	タイトル	発表者（所属）
13:00-13:10	開会挨拶, 趣旨説明	小林文明（防衛大学）
13:10-13:50	[招待講演] 竜巻発生環境場の気候変化と将来予測	加藤 輝之（気象研）・村松 貴有（気象庁）
13:50-14:30	[招待講演] 木造小屋組接合部の引張試験および強制腐朽試験に基づく耐力低減評価に関する研究	今野 大輔（八戸工業高等専門学校）
14:35-14:55	2021年の竜巻被害および評定結果について	加茂 直幸（気象庁大気海洋部）
14:55-15:15	建築物のDI, DOD	奥田 泰雄（建築研究所）
15:15-15:35	船舶の強風被害と被害発生風速の検討	曹 曙陽（同済大学）
15:35-15:55	街路樹の耐風性についての検討	鈴木 覚（森林総研）
15:55-16:00	閉会挨拶	田村幸雄（重慶大学教授、東京工芸大学風工学研究拠点プログラムコーディネータ）